●上映劇場

「午前十時の映画祭13」は、以下の劇場に於いて開催され、作品はグループA・Bで交互に2週間上映されます。（※『カサンドラ・クロス』を除く）

GROUP A

北海道	札幌シネマフロンティア	静岡	TOHOシネマズ 浜松
宮城	TOHOシネマズ 仙台	愛知	ミッドランドスクエア シネマ
新潟	T・ジョイ新潟万代	石川	イオンシネマ金沢
栃木	ユナイテッド・シネマ アシコタウンあしかが	三重	イオンシネマ津
茨城	シネプレックスつくば	大阪	高槻アレックスシネマ
埼玉	ユナイテッド・シネマ ウニクス南古谷	大阪	大阪ステーションシティシネマ
千葉	TOHOシネマズ 市原	大阪	TOHOシネマズ 泉北
千葉	TOHOシネマズ 市川コルトンプラザ	和歌山	ジストシネマ和歌山
東京	TOHOシネマズ 日本橋	岡山	TOHOシネマズ 岡南
東京	TOHOシネマズ 池袋	広島	広島バルト11
東京	立川シネマシティ	香川	イオンシネマ宇多津
東京	TOHOシネマズ 南大沢	福岡	福岡中洲大洋
神奈川	TOHOシネマズ 海老名	福岡	ユナイテッド・シネマ なかま16
神奈川	シネプレックス平塚	大分	TOHOシネマズ 大分わさだ
山梨	TOHOシネマズ 甲府	熊本	TOHOシネマズ 熊本サクラマチ
長野	松本シネマライツ	鹿児島	天文館シネマパラダイス
静岡	シネマサンシャインららぽーと沼津		

GROUP B

岩手	中央映画劇場	岐阜	TOHOシネマズ 岐阜
宮城	イオンシネマ新利府	愛知	ミッドランドシネマ 名古屋空港
山形	MOVIE ON やまがた	富山	TOHOシネマズ ファボーレ富山
栃木	TOHOシネマズ 宇都宮	福井	鯖江アレックスシネマ
埼玉	こうのすシネマ	京都	京都シネマ
埼玉	TOHOシネマズ ららぽーと富士見	大阪	TOHOシネマズ くずはモール
埼玉	MOVIX三郷	大阪	TOHOシネマズ なんば
千葉	シネマサンシャインユーカリが丘	兵庫	TOHOシネマズ 西宮 OS
千葉	京成ローザ⑩	奈良	ユナイテッド・シネマ 橿原
東京	TOHOシネマズ 錦糸町 オリナス	広島	福山駅前シネマモード
東京	TOHOシネマズ 新宿	島根	T・ジョイ出雲
東京	イオンシネマ多摩センター	愛媛	シネマサンシャイン重信
神奈川	TOHOシネマズ ららぽーと横浜	福岡	TOHOシネマズ ららぽーと福岡
神奈川	TOHOシネマズ 上大岡	佐賀	シアター・シエマ
神奈川	TOHOシネマズ 小田原	長崎	TOHOシネマズ 長崎
長野	長野グランドシネマズ	宮崎	宮崎キネマ館
静岡	静岡東宝会館	沖縄	シネマプラザハウス1954

●上映スケジュール

GROUP A

上映期間	作品タイトル
10/27（金）～11/9（木）	男と女
11/10（金）～11/23（木）	暗殺の森 4K
11/24（金）～12/7（木）	ブラック・レイン
12/8（金）～12/21（木）	ボルサリーノ 4K
12/22（金）～2024/1/4（木）	カサンドラ・クロス
1/5（金）～1/18（木）	ショコラ
1/19（金）～2/1（木）	バベットの晩餐会
2/2（金）～2/15（木）	リバー・ランズ・スルー・イット 4K
2/16（金）～2/29（木）	スケアクロウ
3/1（金）～3/14（木）	愛と哀しみのボレロ
3/15（金）～3/28（木）	海の上のピアニスト 4K

GROUP B

上映期間	作品タイトル
10/27（金）～11/9（木）	暗殺の森 4K
11/10（金）～11/23（木）	男と女
11/24（金）～12/7（木）	ボルサリーノ 4K
12/8（金）～12/21（木）	ブラック・レイン
12/22（金）～2024/1/4（木）	カサンドラ・クロス
1/5（金）～1/18（木）	バベットの晩餐会
1/19（金）～2/1（木）	ショコラ
2/2（金）～2/15（木）	スケアクロウ
2/16（金）～2/29（木）	リバー・ランズ・スルー・イット 4K
3/1（金）～3/14（木）	海の上のピアニスト 4K
3/15（金）～3/28（木）	愛と哀しみのボレロ

※4K作品につきましては劇場により4Kでの上映ができない場合もあります。ご覧になる劇場に直接お問い合わせのうえご確認くださいますようお願いいたします。

絶賛開催中！2024年3月28日（木）まで！

上映開始時間と料金は各劇場に確認をお願いします。

※劇場ごとに上映開始時間と料金が異なります。詳しくは各劇場へお問い合わせいただくか、公式サイトでご確認ください。

【作品選定委員】襟川クロ　戸田奈津子　町山智浩　笠井信輔　武田 和（敬称略）

主催／公益財団法人 川喜多記念映画文化財団　一般社団法人 映画演劇文化協会　運営／「午前十時の映画祭」実行委員会

後援／文化庁、モーション ピクチャー アソシエーション、一般社団法人 外国映画輸入配給協会、一般社団法人 日本映画製作者連盟

協力／(有) アレックス、(株) イウォレ京成、イオンエンターテイメント (株)、(株) オー・エンターテイメント、大阪ステーションシネマ共同事業体、(株) 北原、(株) 京都シネマ
佐々木興業 (株)、札幌シネマフロンティア、(有)69' nersFILM、シネマシティ (株)、(株) 松竹マルチプレックスシアターズ、スターシアターズ
(株) 大洋映画劇場、(株) 中央映画劇場、(株) ティ・ジョイ、(株) 天文館、(株) 東京楽天地、TOHOシネマズ (株)、中谷商事 (株)、中日本興業 (株)
日映 (株)、(株) フューレック、NPO法人宮崎文化本舗、(株) MOVIE ON、ユナイテッド・シネマ (株)、東宝東和 (株)、(株) エイガ・ドット・コム

FSC www.fsc.org ミックス 紙 | 責任ある森林管理を支えています FSC® C169462

川喜多記念映画文化財団　一般社団法人 映画演劇文化協会　詳しくは公式サイトで！ asa10.eiga.com

「男と女」©1966 Les Films 13. Tous droits réservés /「暗殺の森」©1971 Minerva pictures Group All rights reserved. /「ブラック・レイン」TM & COPYRIGHT ©1989 BY PARAMOUNT PICTURES. ALL RIGHTS RESERVED.
「ボルサリーノ」©2023 BY PARAMOUNT PICTURES CORPORATION. ALL RIGHTS RESERVED. /「カサンドラ・クロス」Images Courtesy of Park Circus/ITV Studios International Distribution /「ショコラ」©2000 Miramax, LLC. All Rights Reserved. /「バベットの晩餐会」©Astrablu Media, Inc. All Rights Reserved.
「リバー・ランズ・スルー・イット」©1992 BY ALLIED FILMMAKERS, N.V. All Rights Reserved. /「スケアクロウ」©1973 Warner Bros. Entertainment Inc. All rights reserved. /「愛と哀しみのボレロ」©1981 Les Films 13 / TF1 Films Production. /「海の上のピアニスト」©1998 MEDUSA

午前十時の映画祭13

デジタルで甦る永遠の名作

男と女
暗殺の森 4K
ブラック・レイン
ボルサリーノ 4K
カサンドラ・クロス
ショコラ
バベットの晩餐会
リバー・ランズ・スルー・イット 4K
スケアクロウ
愛と哀しみのボレロ
海の上のピアニスト 4K

「リバー・ランズ・スルー・イット」
©1992 BY ALLIED FILMMAKERS, N.V. All Rights Reserved.

男と女
監督:クロード・ルルーシュ
出演:アヌーク・エーメ/ジャン=ルイ・トランティニャン
1966年/フランス/カラー/102分

ボルサリーノ 4K
監督:ジャック・ドレー
出演:ジャン=ポール・ベルモンド/アラン・ドロン
1970年/フランス・イタリア/カラー/125分

◆伝説のスターたち

過去の名作映画を選りすぐって提供する「午前十時の映画祭」なので、当然ながら登場する俳優たちもいずれ劣らぬスターたち。そんな彼らをちょっと違った切り口、自動車・バイクで紹介してみよう。「午前十時の映画祭13」で2本の主演作品があるスティーヴ・マックィーンは自他共に許す四輪・二輪に関しての No.1 スターだが、『タワーリング・インフェルノ』の共演者、ポール・ニューマンも負けていない。『男と女』の劇中にも登場する世界三大レースの一つ「ル・マン24時間レース」でクラス優勝、総合2位になったことがあるのだ。最後のピットインでのミスがなければ総合優勝の可能性もあった。若い時から多くのレースで腕を磨いた成果だ。『大脱走』のジェームズ・ガーナーも『グラン・プリ』でレーサーを演じているが実際のレース経験がある。極めつけが『男と女』『暗殺の森』のジャン=ルイ・トランティニャンで、紹介記事によっては職業が「俳優・レーサー」となっている。それもそのはず、トランティニャン一族はモータースポーツ一家で、ジャン=ルイの叔父モーリス・トランティニアンはこれまた世界三大レースの一つであるモナコ GP2 勝の F1 レーサーである。『男と女』でのレーサー役は、まさに本物なのだ。因みに『ボルサリーノ』のジャン=ポール・ベルモンドは自身ではなく、息子がF1レーサーである。残念ながら実績は残せなかったが、アクションスターだった父親としてはさぞや嬉しかったことだろう。そしてバイクに関してはこれまたスティーヴ・マックィーンの独壇場だが、『大脱走』の鉄条網ジャンプのカットはさすがに危険すぎて、親友のスタントマン、バッド・エイキンスが代演している。『ブラック・レイン』の松田優作はバイクシーンを全て本人が演じており、スタッフは皆驚いたようだ。『アラビアのロレンス』の冒頭のバイク事故シーンはピーター・オトゥール自身が監督の指示で演じており、危険故に最終日に撮影されたと本人が伊丹十三に語っている。逆に『ミッション:インポッシブル』の最新作ではトム・クルーズ自ら演じる超危険なバイクスタントを最初に撮影したとのこと。もし事故があったときに、撮影済みのシーンがあったら無駄になるからという本人の考えだそうだ。まったくもってスターというのは大変なのである。

ブラック・レイン
監督:リドリー・スコット
出演:マイケル・ダグラス/アンディ・ガルシア
高倉 健/松田優作/ケイト・キャプショー
1989年/アメリカ/カラー/125分

◆名カメラマン、ヴィットリオ・ストラーロ

『暗殺の森』はベルナルド・ベルトルッチが撮影監督ヴィットリオ・ストラーロと組んだ二本目の作品である。ストラーロはここで抜群の色彩感覚を駆使し、自ら「光で映画を語る」と表現した才能を存分に発揮する。『地獄の黙示録』でアカデミー撮影賞を取り、更には『ラストエンペラー』でベルトルッチとの名コンビぶりを見せ、『レッズ』に続く三度目のアカデミー撮影賞に輝いている。しかし、坂本龍一さんから聞いた話によると、『ラストエンペラー』の撮影中、ストラーロが長い時間をかけてカメラや照明を準備したスペクタクルシーンの撮影に、最後に現れたベルトルッチはファインダーを覗いて、一言「ノー」と言って帰ってしまったとのこと。準備に時間と莫大な費用をかけたシーンが監督の一言でキャンセルというわけだ。坂本さんが後ろを振り返ると、悲しそうな顔をしたプロデューサーのジェレミー・トーマスが「また、明日ニューヨークに行って、スポンサー探しするよ」と力なく笑って言ったそうだ。「あのヴィットリオ・ストラーロが準備してたんだよ、あのストラーロが」と坂本さんは何度も名カメラマンの名を口にしていた。

暗殺の森 4K
監督:ベルナルド・ベルトルッチ
出演:ジャン=ルイ・トランティニャン
ステファニア・サンドレッリ/ドミニク・サンダ
1970年/イタリア・フランス・西ドイツ/カラー/113分

◆オールスターキャスト

オールスターキャストとは以前はよく使われた惹句である。こう聞いただけで、少し胸が踊る気がしたものだ。『カサンドラ・クロス』はまさにそうした映画で、スターという言葉の前に「往年の」とつきそうな感じがまた良いのだ。列車が舞台のオールスター映画といえば『オリエント急行殺人事件』があるが、あの作品でもローレン・バコールやイングリッド・バーグマンがまさにそんな配役だった。本作では『裸足の伯爵夫人』のエヴァ・ガードナーと『第三の男』のアリダ・ヴァリがそれにあたる。そこにバート・ランカスター、ソフィア・ローレン、リチャード・ハリス、マーティン・シーン、リー・ストラスバーグとくればもうお腹いっぱいである。そして脚本は「007」シリーズのトム・マンキーウィッツ。『裸足の伯爵夫人』の監督ジョーゼフ・L・マンキーウィッツの息子である。アクションにジェームズ・ボンド風の娯楽性があって、ソフィア・ローレンまでが危険なシーンを演じているのもそのためか。まあ彼女の場合、プロデューサーが旦那のカルロ・ポンティだからという大サービスなのかも。

カサンドラ・クロス
監督:ジョルジ・P・コスマトス
出演:ソフィア・ローレン/リチャード・ハリス
バート・ランカスター/マーティン・シーン
1976年/イタリア・イギリス/カラー/129分

海の上のピアニスト 4K
監督:ジュゼッペ・トルナトーレ
出演:ティム・ロス/ブルイット・テイラー・ヴィンス
メラニー・ティエリー/ビル・ナン
1998年/アメリカ・イタリア/カラー/121分

◆味わう映画は「官能映画」である

近年、料理を題材にした映画が増えてきた。昔であれば厨房はカメラや照明が入りにくい撮影困難な場所だったが、機材の小型化も進み、美味しそうな料理が作られる過程をリアルに楽しめるようになったことも大きいだろう。それとは別に、味わうという過程にも注目したい。人間の持つ味覚という感覚はすこぶる官能的であるということだ。犬や猫には人間のような味覚というものがない。嗅覚は非常に敏感なのだが、それは食べ物が腐敗しているかどうかを確かめるためで、グルメなわけではない。人間が持つ味覚は、食欲という欲望にも直結する、まさに官能、エロスの入り口なのである。『ショコラ』はそのことがテーマになっており、ヒロインの作るチョコレートが人々の身体の奥に炎を灯す。『バベットの晩餐会』では全財産を一夜の晩餐会に使う女料理人バベットの芸術家魂が村人たちの身体の内を揺さぶる。さて、『ショコラ』の中ではジュディ・デンチとキャリー=アン・モス演じる母子の葛藤が描かれている。モスの息子は何やら子供らしくない奇妙な絵を書く趣味がある。デンチは孫である彼に詩集をプレゼントするのだが、これがまた気味の悪い「グール(屍食鬼)」が登場する詩が書かれているもので、公開当時、劇場では悪趣味なお婆ちゃんだと失笑がもれていた。だが、これは監督のラッセ・ハルストレムの演出意図としては、デンチは教養ある女性で、エドガー・アラン・ポーに代表される「ゴシック・ホラー」趣味であることを示していて、孫はその遺伝子を受け継いでいるという意味に捉えるべきだろう。注意してご覧あれ。

ショコラ
監督:ラッセ・ハルストレム
出演:ジュリエット・ビノシュ/ジョニー・デップ
ヴィクトワール・ティヴィソル
2000年/アメリカ/カラー/121分

バベットの晩餐会
監督:ガブリエル・アクセル
出演:ステファーヌ・オードラン
ビルギッテ・フェダースピール/ボディル・キュア
1987年/デンマーク/カラー/103分

スケアクロウ
監督:ジェリー・シャッツバーグ
出演:ジーン・ハックマン/アル・パチーノ
リチャード・リンチ/ドロシー・トリスタン
1973年/アメリカ/カラー/112分

リバー・ランズ・スルー・イット 4K
監督:ロバート・レッドフォード
出演:ブラッド・ピット/クレイグ・シェイファー
トム・スケリット/ブレンダ・ブレッシン
1992年/アメリカ/カラー/124分

◆遅れてきたニューシネマ

「午前十時の映画祭」では数多くのニューシネマ作品を上映してきた。『俺たちに明日はない』『イージー☆ライダー』『明日に向かって撃て!』『真夜中のカーボーイ』等々。『スケアクロウ』も代表的なニューシネマ作品で、カンヌ映画祭でパルム・ドールを受賞している。ところが公開当時はヒットにはつながらなかった。『スケアクロウ』のアメリカでの公開は1973年で、先に上げた作品は『俺たちに明日はない』が1967年、他の三作品は全て1969年。つまり怒涛のような名作群の後、『スケアクロウ』はその波から遅れて登場したわけだ。しかも当時の記憶をたどると大男ジーン・ハックマンと小柄なアル・パチーノの組み合わせが『真夜中のカーボーイ』のジョン・ヴォイトとダスティン・ホフマンの焼き直しのようなイメージで見られて、マイナスだったのかも。今回こそは正当な評価をお願いしたい。そして、ロバート・レッドフォードが監督した『リバー・ランズ・スルー・イット』もぜひ。『明日に向かって撃て!』の時は33歳、その彼が56歳になっての作品だ。『明日に向かって撃て!』での役名、サンダンス・キッドに因んでインディペンデント映画の祭典「サンダンス映画祭」を立ち上げたレッドフォードにとって、ニューシネマというのは自らのルーツだろう。四半世紀ほど遅れたが、これもまたニューシネマ作品と言えるのではないだろうか。

◆フランス・イタリア、名作曲家競演

『愛と哀しみのボレロ』のフランシス・レイとミシェル・ルグラン、『海の上のピアニスト』のエンニオ・モリコーネ。「午前十時の映画祭13」の最後を飾る二作品は仏・伊の名作曲家競演である。フランシス・レイは、『男と女』『白い恋人たち』『雨の訪問者』『ある愛の詩』等があるし、ミシェル・ルグランは、『シェルブールの雨傘』『ロシュフォールの恋人たち』『華麗なる賭け』『おもいでの夏』等々。更にエンニオ・モリコーネは、『荒野の用心棒』『続・夕陽のガンマン』『ワンス・アポン・ア・タイム・イン・アメリカ』『アンタッチャブル』『ニュー・シネマ・パラダイス』と「午前十時の映画祭」上映作品だけでも、これだけの作品が並ぶ。いずれ劣らぬ映画音楽の名手で、世代もほぼ同じである。『愛と哀しみのボレロ』では、作曲家、指揮者、歌手、バレエダンサー、様々な人々が戦争によって翻弄される様が二世代に渡って描かれる。『海の上のピアニスト』では、客船の中で生まれ、生涯陸に上がることのなかった不思議なピアニストの話が語られる。そして、そんなストーリーや俳優たちの熱演に負けない、音楽の力、映画史に残る作曲家たちの素晴らしい音楽をたっぷりとご堪能あれ。

愛と哀しみのボレロ
監督:クロード・ルルーシュ
出演:ロベール・オッセン/ジョルジュ・ドン
ダニエル・オルブリフスキー
1981年/フランス/カラー/184分

※テキスト/武田 和(作品選定委員)